

千葉市感染症発生動向調査情報

2021年 第7週 (2/15-2/21) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		7週	6週	5週	4週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	2/15-2/21	2/8-2/14	2/1-2/7	1/25-1/31	2/8-2/14
			7週	6週	5週	4週	6週
小 児 科	RSウイルス感染症		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	咽頭結膜熱	○	2 0.11	0 0.00	1 0.06	1 0.06	16 0.12
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	10 0.56	3 0.17	7 0.39	4 0.22	71 0.53
	感染性胃腸炎		28 1.56	37 2.06	26 1.44	29 1.61	231 1.74
	水痘		2 0.11	2 0.11	1 0.06	2 0.11	26 0.20
	手足口病		1 0.06	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.01
	伝染性紅斑		0 0.00	1 0.06	0 0.00	0 0.00	1 0.01
	突発性発しん		7 0.39	12 0.67	5 0.28	10 0.56	52 0.39
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性耳下腺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	9 0.07
イン フル	インフルエンザ*(高病原性鳥イン フルエンザを除く)		0 0.00	0 0.00	2 0.07	0 0.00	4 0.02
眼 科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		2 0.40	0 0.00	1 0.20	1 0.20	6 0.18
基 幹 定 点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(182件)

※新型コロナウイルス感染症174件は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	女性	10歳未満	画像検査	アメーバ赤痢	男性	50歳代	病原体の検出
結核	女性	60歳代	IGRA検査	梅毒	女性	10歳代	血清抗体の検出
結核	女性	70歳代	病原体の分離・同定	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出
腸管出血性 大腸菌感染症	男性	30歳代	病原体の分離・同定 及びベロ毒素の確認	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出
				新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代~100歳代	病原体遺伝子の検出等

・第7週は、結核3件(17)、腸管出血性大腸菌感染症1件(4)、アメーバ赤痢1件(2)、梅毒3件(8)、新型コロナウイルス感染症174件(2629)の発生届があった。

※ ()内は2021年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第7週のコメント

<咽頭結膜熱> 前週より増加した。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベル。

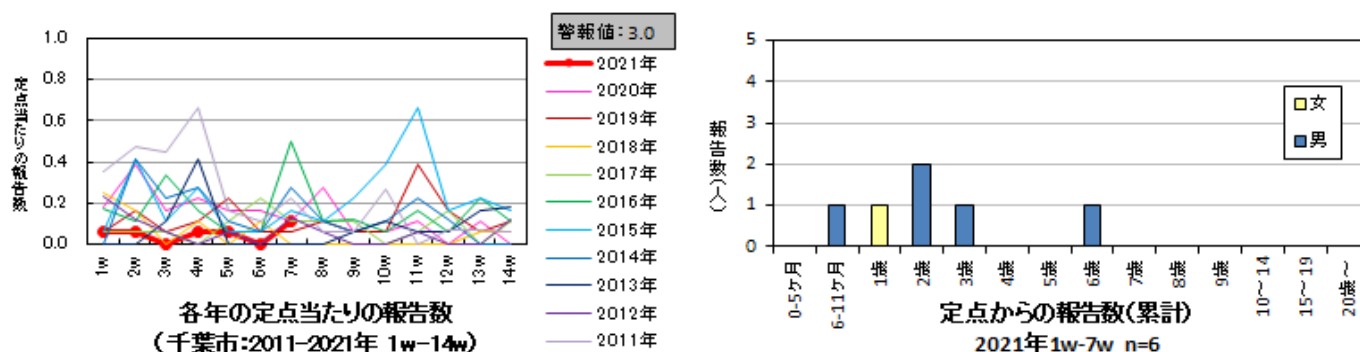
<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加した。過去10年の同時期と比べると少ないが、第3週から増加傾向にある。

<咽頭結膜熱>

全国レベルの第6週は0.20で、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、鹿児島県、石川県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県は0.12で全国レベルと比べると少なめとなっています。

千葉市の第7週は、前週より増加し0.11となり、過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなりました。区別の発生状況は、緑区(0.50/定点)のみで、同区の2歳及び3歳で発生報告がありました。2021年第1週から第7週までの累積報告数は6件で、男性が83.3%(5件)、女性が16.7%(1件)で、年齢階級別では2歳(33.3%:2件)で最も多くなっています。

咽頭結膜熱は、発熱・咽頭炎及び結膜炎を主症状とする急性のウイルス感染症で、病原体はアデノウイルスです。発生は年間を通じてみられますが、特に夏期にプールを介した流行が見られます。感染経路は飛沫感染、又は手指を介した接触感染で、プールを介した場合は汚染した水から結膜へ直接感染していると考えられています。予防方法としては、感染者との密接な接触を避ける、うがいや流水と石けんで手指を良く洗うことが重要です。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第6週は0.73で、過去10年の同時期と比べるととても少なくなっています。都道府県別では、福岡県、新潟県、鳥取県の順に多く報告されています。千葉県は0.53で全国レベルと比べるとやや少なめとなっています。千葉市の第7週は、前週より増加し0.56となり過去10年の同時期と比べると少なくなっていますが、第3週から増加傾向となっています。区別の発生状況は、若葉区(2.5/定点)で最多で、同区の5歳で最も多く報告されました。2021年第1週から第7週までの累積報告数は36件で、男性55.6%(20件)、女性44.4%(16件)となっており、年齢階級別では3歳(19.4%:7件)、5歳(16.7%:6件)、10歳代前半(11.1%:4件)の順に多くなっています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群レンサ球菌による上気道感染症です。乳幼児では咽頭炎、年長児や成人では扁桃炎となり、発赤毒素に免疫のない人は猩紅熱といわれる全身症状を呈します。気管支炎を起こすことも多く、発疹を伴うこともあり、リウマチ熱や急性糸球体腎炎などの二次疾患を起こすこともあります。主な感染経路は、患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによること(飛沫感染)や、細菌が付着した手で口や鼻に触れることによること(接触感染)です。予防方法は、患者との濃厚接触を避けることが最も重要で、うがい、手洗い、咳エチケットが勧められています。

